

～シーギリヤにおける地域主導型観光振興プロジェクト～
ニュースレター

No. 01

Project COTS について

「シーギリヤにおける地域主導型観光振興プロジェクト」(Project for Development of the Culture Oriented Tourism in Sigiriya: Project COTS)は2008年8月から2年半の予定で開始されました。スリランカの中央州マータレ県ダンブッラにある世界遺産シーギリヤのすぐそばに、日本政府による援助から得られた「見返り資金」(2KR)を活用して建設されている新シーギリヤ博物館。このシーギリヤ博物館をこの地域の文化・観光情報発信の中心となるような存在にし、スリランカ各地、世界各国から集まる観光客にシーギリヤをはじめとするダンブッラ地区、そして文化三角地帯の魅力を広く知ってもらい、地域振興につなげようというのがこのプロジェクトです。スリランカ側は文化・国家遺産省中央文化基金(CCF)と観光省スリランカ観光振興局(SLTPB)が実施機関としてこのプ



シーギリヤ博物館 完成予想図

プロジェクトに携わっています。今年4月の開館を目指す新シーギリヤ博物館には、日本政府の文化無償資金援助により、有名なシーギリヤ遺跡のフレスコ壁画のレプリカ、シーギリヤ遺跡一円の100分の1モデル(来館者はその上を歩いて見学できます)、展示ギャラリーで使用されるガラスケースや館内案内図などが設置されます。

Project COTSでは、総勢11名の団員が協力し、こうした新しい設備を十二分に活用し、来館者がより主体的に体験できる「新しい博物館」とできるよう、CCFシーギリヤのスタッフと共に運営方針を検討し、必要な研修を実施していきます。

Project COTSの目指す

「新しい博物館」とは？

双方向型：来館者、観光業界、ビジネス界、教育システム、学者・研究者との双方向の情報のやり取りが出来る場所。

知的楽しみ：常設展、特別展、公開プログラムなどを提供し、知的好奇心を満たせる場所。

寛ぎ：はらかな古代に思いを馳せながら、静かに心を落ち着けることができる場所。

高い満足度：常にニーズを探り、来館者が満足できる場所。

地域連携型：博物館近隣のコミュニティーや自然環境とのダイナミックな連携を目指す。

実験的：最高の博物館をめざし、常に分野を超えて新しい試みに挑戦する。

文化・国家遺産省によるプレス・カンファレンス開催

1月24日、マヒンダヤーパ・アベールダナ文化・国家遺産省大臣が同省次官及び CCF の Director General と共にシーギリヤを訪問し、記者会見を行いました。会見に先立ち、報道関係者と共に開館準備の進むシーギリヤ博物館を見学。周囲の自然とシーギリヤ遺跡の建築概念を取り入れた建築と、シーギリヤ遺跡モデルを目玉とする日本政府の文化無償資金援助による展示機材設置の状況を視察しました。

マヒンダヤーパ大臣は記者会見で、文化はスリランカの民族問題を解決する糸口となりうると述べ、博物館の完成に期待を寄せています。



フレスコ画レプリカを見学するマヒンダヤパ大臣(右から2人目)と記者団

COTS ワークショップシリーズ 開始

2月12日、13日の両日、CCFシーギリヤのスタッフ17名が参加して、博物館の運営方針について話し合うワークショップが実施されました。COTSチームからのプロジェクト概要と「新しい博物館」についての説明に対し、積極的、建設的な意見が次々と上げられました。

この日を皮切りに連日、毎日テーマを変え、スタッフ構成、防犯対策、メンテナンス方針など、新博物館での運営方針を協議、決定していっています。中でも「新しい博物館」の目玉となる「公開プログラム」「観光情報センター」についてのワークショップでは、シーギリヤに在ることの地の利と考古学に携わる CCF スタッフならではの知的好奇心を生かした多様なアイデアが挙げられました。例えば、伝統スポーツに関する特別展が提案されると、地域と共に開催する伝統スポーツ大会・教室が提案されるなど、すぐにでも実施したいような案がいくつも挙がりました。CCFシーギリヤのスタッフも「新しい博物館」では自分たちがこれまで心の片隅で温めてきていた夢をプログラムとして実施していけるのだと、博物館への期待が高まっています。